６月議会では
ニーズに合わせた
子育て支援の
多様で幅広い受け皿づくり
を訴えました

壇上にて

私は”安心して預けられる仕組み作り”と”地域協働のあたたかい支援体制”を選挙で公約に掲げました。育児中の困りごとや深刻化する少子化対策として、各々のニーズに合った多様な支援の具体策を今こそ市が先導して実現すべきだと考えます。６月市議会での一般質問の内容をご紹介します。

子育てに優しい武蔵野を！以下、質問事項と市長の回答です。

① ４月施行の子ども・子育て支援新制度を子育て世帯に広く周知する為に「コンシェルジュ便り」の配布先追加やホームページの拡充等に取り組んで欲しい

→A.　保育園利用者に限定しない周知を積極的に検討。ホームページも来年度リニューアル予定。

② 都内４８市区で実施しているファミリーサポートセンター事業の実施を

→A. 市の子どもプランにも位置付けているので積極的に検討

③ 訪問型保育事業（ベビーシッター）の安全基準作りと、利用者の対象を狭めることのない事業実施を

→A. 都などの研修制度への参加を各施設に周知し、他自治体と連携した広域的な研修制度についても検討。事業は障害児保育の一環として検討。

＊その他全１２個の質問は当ホームページをごらんください

笹岡ゆうこ　お問い合わせ先　080-5000-1260

メディアに
特集されました

４月１６日発売　週刊新潮
５月４日付　朝日新聞
５月２２日放送　フジテレビ
『バイキング』

ママ目線 マイクは控える

笹岡裕子さん(29) 元商社員 無所属 当選

「ママの目線で、子どもたちの未来のために」と訴え、当選した。「大音量のマイクはうるさいだろう」と朝晩はマイクを使わず、一人一人に目を見てあいさつした。選挙運動は中高の同級生とママ友が支えた。

きっかけは東日本大震災と原発事故。長男は生後8カ月だった。情報不足に不安が募った。「自分たちの世代が政治に関心を持たないと、子どもたちによりよいものを残せない」。政治塾に通い、学び始めた。

武蔵野市議選(定数26) 1449票 37人中15番目

告示前、夜は政治に江戸弁護士に長男を預け、日付が変わる直前まで駅に立った。予想外のことにも直面した。駅前で政治活動のビラを配っていたら、友人の子どもたちが手伝った。その様子が知らぬうちに撮影され、公職選挙法に禁止される「未成年者の選挙活動」と報道されてツイッターに投稿された。すぐ市選管に問題ないことを確認したが、誤った情報は拡散した。悪ち込んだ当選に実感はない。これから頑張らなければ。